

ロシア極東を中心とした中世考古学関連研究

臼杵 勲（札幌学院大学）

ロシア極東中世考古学の対象・課題

対 象 ： 女真系集団の考古資料

課 題 ： 考古資料に基づく、地域史の構築
東洋史研究における関心の低さ
史料の不足
考古学研究の重要性
中国周辺社会の展開
征服王朝・二元的支配
生産・流通の発達
環日本海地域の交流

考古学による女真系文化

時期的な設定 ： 10～13世紀（渤海滅亡～元の侵攻まで）

地理的な設定 ： 松花江・黒龍江流域・沿海州

考古学上の諸文化

綏濱三号類型・アムール女真文化・パクロフカ文化

金・東夏代女真

その他：契丹・遼・モンゴル関連

既存の調査研究

沿 海 州：金・東夏代女真研究
城址中心の調査研究
陶磁器等の遺物個々の研究

アムール地域：渤海・遼代中心
靺鞨系文化からの連続性：族属問題

中 国：黒龍江流域綏濱三号類型の遺跡調査
金代城址・生産址・墳墓の調査
城の分類・墓と城の関係・製鉄址の調査

研究の課題

- 城址・官衙等遺跡と政治・経済システム
 - 行政制度
 - 都市生活
- 生産・流通の研究
 - 生産遺跡の解明（鉄・陶磁器等）
 - 中国流通圏での位置付け・関連（陶器・銭等）
- 渤海～金期の文化内容
 - 文化設定・内容・族属

作業目標

- 地理情報の取得と整理・分析
- リモートセンシング・データベース・GISの活用
- 出土文字資料・史料研究との対比
- 文化複合の整理：土器研究
- 各国各機関との連携の強化